

凡例

1. 本記事・論文解題が対象にする文献は、その大部分がここ5年間（2001～2005年）に出版されたものであるが、一部前回未採録だった記事・論文も含んでいる。また、採録対象の記事・論文は4ページ以上の分量をもつインドネシア語の記事と論文に限られている。内容がインドネシア語以外の言語で、要約のみインドネシア語の場合は採録対象外とした。
2. 本記事・論文解題は「政治」、「経済」、「社会、その他」、「学術論文」の4部からなり、各部では情報誌は発行年月日順、学術誌は著者名のローマ字アルファベット順に（著者が同一の場合は古いものを先に）配列してある。
3. 各部の冒頭部分においては、掲載記事・論文の全体像に関する解説を掲載した。
4. 雑誌記事・論文の表記は、著者（論文のみ）、記事・論文タイトル、副タイトル、特集名、掲載雑誌名、巻号、発行年月日、掲載ページ、注釈の順である。発行年月日の月名は英語で表記し、1、2、3、4、8、9、10、11、12の各月はそれぞれJan., Feb., Mar., Apr., Aug., Sept., Oct., Nov., Dec.の省略形を用いた。[]内の数字はページ番号が付されていないページで、前後のページ数をみた上で相当する数字を記入した。
5. 週刊誌2誌（*Tempo* および *Forum keadilan*）の発行年月日は、いわゆる「何月何日号」に相当するもので、実際に発行されたのはその約1週間ほど前である。そのため、出来事自体が起こった日と発行年月日との間には1～2週間、あるいはそれ以上の時差がある。
6. 各情報誌の記事注釈は内容の解説であり、各学術誌の論文注釈はタイトルを翻訳したもの（丸括弧で意味の補足を行ったものもある）である。注釈の中の人名は敬称を省略した。
7. 巻末に収録した索引は、人名、組織・団体名、会社名、地名、その他をローマ字のアルファベット順に並べた左列と、その関連記事のアイテム番号を示した右列とから成っている。
8. 索引においては組織・団体名などに略称を用いたものがあるが、フルネームをみるよう指示を入れてあるので、そこから目的の文献を探していただきたい。また、人名においては通称から正式名を参照するよう指示を入れた。基本的に、人名で姓に相当す

る名前の要素は前に置き、Achmad や Mohammad 等のポピュラー・ネームは便宜上後置したことが多い。なお、学術誌の執筆者は索引から除き、情報誌でも 2 ページ以上にわたるコラム記事の執筆者とインタビュー回答者以外は索引に掲載しなかった。